



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1997~98年度 RIテーマ

国際ロータリークラブ会長 グレン・W・キンロス



ロータリーの心を

あなたの住むところ 私たちの世界 そこに住むすべての人々に

四大奉仕部門すべてを通じて ロータリーの心を示そう――

クラブ奉仕=あなたのクラブに ロータリーの心を

職業奉仕=あなたの職業に ロータリーの心を

社会奉仕=あなたの地域社会に ロータリーの心を

国際奉仕=私たちの世界に ロータリーの心を

新世代のための月間

第477回 平成9年9月26日(金)

[本日のプログラム]

1. 点 鐘
2. ロータリーソング
「それでこそロータリー」
3. 食 事
4. 会長の時間
5. 幹事報告
6. 各委員会報告
7. 会員卓話 梶田與之助君
8. 点 鐘

次回予告

*10月3日(金)

セレモニー

会員卓話 加藤仙之君

*10月10日(金)は休会

*10月14日(火)

創立10周年記念式典・

祝賀会リハーサル

12:30 シーサイドホテルフェニックス

全会員ご夫人ご同伴で

必ずご出席ください

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30) 第2・19:00 会長 徳丸彰一

例会場 石崎浜荘 ☎0985-73-1913 副会長 加藤仙之

事務局 宮崎郡佐土原町大字下田島20614 幹事 梶田與之助

山脇医院長自宅内

会計 福井輝文

☎880-02 ☎(FAX)0985-73-7170 会報委員長 垂水敏雄

第476回例会記録 (1997.9.18)

☆会長の時間

徳丸 彰一君

皆さん今晚は、本日は第476回例会です。例会終了後、恒例の観月会を行いますので、中秋の名月を仰ぎながら相互の親睦をますます深めていただきたいと思います。ご多忙中をご参加くださいました佐野会員ご夫人・伊東忠寛会員ご夫人・徳丸会員ご夫人・福井会員ご夫人並びに前事務局員池田文子さん・事務局員桜井カズ子さん・ロータリー財團奨学生宇都宮由美さんに、深く感謝いたします。

今回は、台風19号の影響で当初の計画を急遽変更せざるを得ず、伊東忠寛会員には会場との折衝で大変お世話になりました。また、吉田委員長をはじめ親睦委員会の皆様のご尽力に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

☆幹事報告

梶田 與之助君

本日は報告、連絡事項はありません。

☆出席報告

委員長 宮原建樹君

会員数	29名
H C出席者数	22名
欠席者数	7名
出席率	75.9%
メークアップ者数	3名
修正出席率	86.2%
欠席者名	中武・梶田・福田・伊東

観月会

台風一過後の澄明な月を眺めながら、徳丸会長の乾杯によって、豪華な月見料理と美女（昔？）に囲まれた楽しい宴が始まりました。和気藹々の談笑が宇宙に広がっていきました。

お楽しみ抽選会では、日頃の行いのよい岩切会員が当選され、皆さんからの祝福を一身に受け、大満足でした。

名残は尽きませんでしたが、夜も更けてきましたので、初代会長山脇君の一本締めでお開きとなりました。

9月のハッピー・ボイス

今年で44歳になります。誕生日を祝っていただき、ありがとうございます。体にもいろいろと不調な所もありますが、気をつけて頑張りたいと考えています。藤堂孝一

入会して間もないのに、誕生日祝いの記念品を頂き、恐縮致しております。これからは、先輩であります皆様方の御指導を受けながら、クラブの一員として努力致したいと考えていますので、よろしくお願い致します。宮本信吾

☆会員卓話 [II] 9/5

岩切正司君

この度の体験から、私も住職というプロとして、素人さんに対して日頃同じようなことをしているのではないかと反省させられました。

例えば、法事で檀家に行きますと、よく「仏壇にお線香をあげるときは何本がいいのですか」と訊かれます。そんな低次元なことでなく、もっと難しいことを質問してくれたらいいのにと私は内心思うのですが、相手はそれが精一杯なのでしょう。そのときには、私はきっと嫌な顔をしていたと思います。

これからは、「お線香は1本を二つに折って火を着け、南無阿弥陀仏とお唱えしながら拝んでください」と親切に教えようと反省しております。

その道のプロになると、あまりにも分かり過ぎているために、つい素人の気持ちをないがしろにするようになります。立場を代えて物事を見ることが一番大切だと思います。

素人の立場になってみると、どのようにしてもらったら理解でき、有り難く思えるかがよく分かります。素人には何度も何度も初歩から懇切丁寧に教えるのが本当のプロではないかと、この頃考えようになりました。

先日ラジオを聴いていましたら、次のような話がありました。

『新しいものを創作しようとするときは、同業者に勝とうとか、町で一番になろうとかの小さな考えを持っていたのでは、すばらしいアイディアは出て来ない。

アメリカのように、火星にロケットを打ち上げるくらいのビジョンを考えていると、他人がやらないよいアイディアと技術が浮かんで来る。志は大きく持たなければならぬ。』

同じ職業に多年就いていると、惰性で前例の踏襲になりがちです。常に改革の心を失わないようにしたいものです。

今回の講習では、接遇の面の大切さを同時に知られました。優しい言葉を掛ける、相手を大事にすることが、よい人間関係をつくっていく根本です。

J A・A Z Mホールの建物はすばらしく、空調も快適です。しかし、休憩時間になると、なぜか200人くらいの受講者全員が室外に出て行くのです。

恐らく講習会の雰囲気に息苦しさを感じたのでしょうか。いくら施設・設備が近代的に整備された会場であっても、対応する職員たちに接遇の心が欠如しているは、人々は喜ばないものです。

☆会員卓話 [II] 8/22

赤木達也君

この例会場の近くに、不動産業者が戸建住宅地「シーサイドさどわら」を造成中ですが、その一角に伊賀給遺跡（南九州では最大の水田が在った）があり、現在発掘調査をしています。極めて貴重な遺構でありますので、これも後日調査結果を発表させていただきます。

それから、小・中学生から絵画を募集しています。佐土原町内に在る旧道、神社仏閣、文化遺産と対面して、じっくり観察しながら描くことに重点を置いています。そのことが家族の中で話題になり、地域社会を愛する子供に育ってもらいたいと思っています。

昨年の応募作品は40点でしたが、今年は最低300点は集まりそうです。

また、「わが家の宝物展」への出品もお願いしています。昨日は、枕に抽出しの付いた珍しい物を持参されました。

後でよく見ますと、抽出しは上げ底になっていて、下の方に珍しいお金を入れてありました。提出された方は、恐らく上げ底とは気が付かれなかったのしょう。

今年は西南の役120周年に当たりますので、島津啓次郎について若干話してみたいと思います。

★島津啓次郎は第10代佐土原藩主島津忠寛の第3子として、1857年（安政4年閏5月25日）に佐土原で生まれる。

母は側室知佐子（江戸の人）。

★1860年（万延元年）閏3月に番頭兼寺社奉行町田宗七郎の養子となる。

（町田啓次郎）

★1869年（明治2年）7月28日、曾小川彦千代と共に上京し、勝 海舟の門に入り薰陶を受ける。

★1870年（明治3年）8月28日に渡米のため横浜出航 [三浦十郎・児玉章吉（日高次郎）・木脇 良同行]

同年9月23日 サンフランシスコ着

★1871年（明治4年）、米国ニューイークのグラマースクールに編入学

★1873年（明治6年）10月14日にアナポリス（海軍兵学校）に入校

★1876年（明治9年）1月4日公式にアナポリスを退校し、米国内を巡歴

※曰く「航海術は修得せり、我が科学とすべきは武に非ず、文にあり。」と。

★米国留学中に、政治学・文学・数学・英仏語等幅広い勉強をしてきた。

★1876年（明治9年）2月に島津に

復籍する。（島津啓次郎）

★1876年（明治9年）4月1日、サンフランシスコ出航（赤羽四郎同行）

同年4月22日帰朝（横浜に上陸）

★1876年（明治9年）4月29日～5月26日奥羽地方遍歴、戊辰の役の戦没佐土原兵の墓を弔う。

★1876年（明治9年）6月22日に勝 海舟邸を訪問、西郷隆盛への親書を託される。

★1876年（明治9年）6月26日横浜を発し、大阪、長崎を経て鹿児島へ、桜島有村温泉に滞在中の西郷隆盛を訪う。

★1876年（明治9年）7月17日に東京在住の祖母隨真院死去の報があり、即日上京する。本人も罹患し入院する。

★1876年（明治9年）10月30日帰郷、広瀬又は三納谷照寺に居住し、書生達と共に生活をしながら教育活動を始めた。

★1876年（明治9年）11月に『自立社』（佐土原壯年士族の自己啓発結社）を設立

★1877年（明治10年）2月5日に私立『曷文饗』（英語・数学・世界地理・歴史・漢学等を教授する学校）を開校

★同年同日に、鹿児島の西郷隆盛が大挙東上との内報があり、『自立社』で討論の結果、啓次郎は西郷支援を決定

★1877年（明治10年）2月8日に佐土原隊を編成し、啓次郎を総裁に選出

『曷文饗』・『自立社』を解散する。

★1877年（明治10年）2月9日に島津啓次郎率いる佐土原一番隊出陣

★同年9月24日、西郷隆盛と共に鹿児島の城山岩崎谷で戦死。時に21歳

（要旨です）